



## 地域の教育力向上研修

手話通訳あり

# 共生社会の実現

～障がい者が自立して暮らせる地域づくり～

令和元年9月5日（木）開催

講義では、単身世帯が急増していくという単身社会の視点から入り、障がい者の自立と社会参加の歴史、障がい者支援の課題、障がい者にとってのノーマライゼーションとは、障害者権利条約が求めるもの等を学びました。大切なのは「当事者視点」を持つことだと話されました。また研究発表では、難病（筋ジストロフィー）や聴覚障がいをかかえているお二人から、お話をお聞きし、今後の共生社会実現のための地域づくりについて考えました。（受講者数 46人）

### ＜研修内容＞

講義	演題	「単身社会における地域の未来を考える～障がいがつなぐ地域～」
	講師	首都大学東京 人文社会学部社会福祉分野教授 杉野 昭博 氏
研究発表Ⅰ	テーマ	「共生社会に向けて障害当事者として出来ること」
	発表者	CIL上田Groping代表 井出 今日我 氏
研究発表Ⅱ	テーマ	「ろう者の暮らしと共生社会」
	発表者	(社福)長野県聴覚障害者協会 塩尻市聴覚障害者協会 役員 塩尻市手話講座運営委員会 委員長 森下 尚子 氏
まとめ	指導	首都大学東京 人文社会学部社会福祉分野教授 杉野 昭博 氏



### 受講者アンケートから

- 退職単身者のニーズと障がい者のニーズが似ていると知り、驚きました。講義をお聞きし「障がいのある人は周囲の人の能力を引き出す存在」「共生社会」や「合理的配慮提供義務」など、改めて理解し、どのように実現していくかを考えることができました。勉強させていただきました。
- 単身社会と障がい者福祉との接続がわかりやすく、興味が深まりました。また、障がい者福祉の現状と抱える課題について考える機会となりました。大学の発達障がいのある学生さんの話を含め、難しい内容をわかりやすく話していただき、ありがとうございます。（市町村関係者）
- 研究発表のお二人のお話をお聞きして、自立に向けて前向きに生活されていること、それぞれこれからの時代のことも考えていらっしゃることは、すばらしいと思いました。
- 障がい者、健常者の隔てなく交わる環境を整えることの重要性、多様性を理解し合える環境づくりが大切だと痛感しました。（学校教職員）